

※満潮線と干潮線間の地帯。潮の満ち引きによって、陸になったり海中に沈んだりする。

足を踏み入れていく。これから始まるのはマングロープの植樹イベント。地元の高校生約20人が、環境学習の一環として参加した。

マングロープとは、熱帯や亜熱帯地域の河口など、海水と淡水が混ざり合う潮間帯※に生える植物の総称。マングロープの森には、カニやエビ、貝、魚、水鳥などが暮らす豊かな生態系が存在する。また、地中で複雑に絡み合った根が天然の防波堤となり、洪水や高潮などの被害を抑えるほか、二酸化炭素の吸収・貯蓄量（1ヘクタール当たり）が熱帯雨林よりも多いなど、地球温暖化の抑制にも大きな役割を果たす。

かつては、島全体が森林に覆われていたネグロス島。沿岸部にはマングロープ林が広がり、人々は必要最低限の薪や魚介類などを収穫し生活していた。しかし、そのように人と自然のバランスが保たれていたこの島も、1970年代以降、大規模なエビ養殖地の造成、人口増加に伴う道路建設、住宅地の開拓などが拡大し、生態系の破壊が進行した。イカオ・アコの活動拠点・西ネグロス州では、50年代に約1万3000ヘクタールあったマングロープ林が、今では500ヘクタールにまで減少、生物が減っただけでなく、洪水などの被害も頻発するようになった。



日本からの植樹スタディーツアーもこれまでに50回以上開催。現地の人々の温かさに触れ、リピーターとなる人も多い。海を越え、日本でも支援の輪が確実に広がっている



貧困家庭の女性や子どもたちの自立を支援する団体と提携し、ごみのリサイクルバッグを製作。収益の一部はマングロープの植樹に使われる

「切ってしまうのは簡単だけど、それを再生させるのはとても大変なことなんだと分かった。この経験を周りの人たちにも伝えていきたい」

バラリン村で植樹を終えた高校生の一言葉だ。「マングロープをよみがえらせ、守り育てるための『輪』が少しでも広がってほしい」と願う倉田さんにとって、それは何よりうれしい言葉だったに違いない。

継続的に木を植えるために

そんな状況にあるネグロス島のマングロープを取り戻すため、イカオ・アコは97年、シライ市役所と協力しながら、マングロープの植樹、保全活動を開始。地域住民が主体的に参加できるよう、苗木集めや育成、植樹、メンテナンスなどの技術を指導している。バラリン村ほか19の村で、これまで植樹した苗木の数は延べ55万本に上る。また、マングロープの減少で漁獲量が落ち、現金収入が減った住民には、生計向上のための支援も実施。マングロープ林との共生に配慮した魚やカニの養殖などに必要な資金を提供し、そこで上がった利益の10%をマングロープの植樹費用に充て、継続的な植樹を促している。また2007年からは、合わせて約800世帯、5000人が暮

らす州南部12カ村を対象に、20万本の植樹と住民の生計向上、環境教育の普及を支援するJICAの草の根技術協力事業を展開中。定期的に村を訪問し、マングロープが育つ様子を見守っている。

「マングロープを育てるには、長くて地道な取り組みが求められます」と倉田さん。苗木の根が地中にしっかり張るまでに3年。植えた後も、ゴミや海藻が巻き付いて苗木が死んでしまわないよう、まめな手入れが欠かせない。時には高波が苗木をさらったり、生活に困った一部の住民が、違法な潮干狩りで植樹サイトを荒らしてしまうこともある。

それでも、これまで述べ400人以上に上る植樹スタディーツアーの参加者や、倉田さんたちイカオ・アコのスタッフが住民と泥だらけになって作業してきた成果は、確実に形



自主的に植樹や保全に取り組み村が増え、最近では、「たくさんの生き物が地域に戻ってきた」「暴風の被害が少なくなった」という声もよく聞かれるそうだ。

「ようこそ！今日は皆さんが、楽しみながら環境について何かを学んでくれればうれしいです！」

集合した高校生たちに、NPO法人「イカオ・アコ」の倉田麻里さんが元気に声を掛ける。ここは、サトウキビの生産で世界的に知られるフィリピン・ネグロス島。北部にあるシライ市バラリン村で、裸足の生徒たちが歓声を上げながら泥地の中に

消えたマングロープ林



かつてはネグロス島沿岸部全体に広がっていたマングロープ林も、開発によって多くが姿を消した。その価値が見直されつつある今こそ、再生に向けた努力が求められている



植樹に使う苗木を用意するバラリン村の住民



マニラ
フィリピン
西ネグロス州
ネグロス島



心を込めて、苗木を一本一本植えていく高校生たち

「マングロープの成長を誇らしげに喜ぶ地元の人たちを見るのが一番の幸せ」という倉田さん。村人とのミーティングでも、常に笑顔が絶えない

環境学習にやってきた高校生たちに、マングロープの大切さを伝える倉田さん。環境学習には、州内のさまざまな学校から参加希望が相次いでいる



国際協力の担い手たち

NPO法人 イカオ・アコ

よみがえれ!“海の森”

沿岸部に広がる豊かなマングロープ林が消えつつあるフィリピン・ネグロス島。生態系をはぐくみ、人々の暮らしにも多くの恵みをもたらすこの“海の森”を取り戻すため、NPO法人イカオ・アコは、地域に根差した活動を行っている。

